

1. 開催概要

展覧会名	プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影		
会 期	〔平成 23 年 10 月 22 日～平成 24 年 1 月 29 日〕		
開催 施設名	国立西洋美術館	入場者数	343,315 人（開会式・内覧会等ふくむ）
<p>（開催概要）</p> <p>本展覧会は、近代絵画への道を開いたスペインの巨匠フランシスコ・デ・ゴヤ（1746－1828）の、日本では 40 年ぶりとなる回顧展として開催された。</p> <p>（1）展覧会内容と評価</p> <p>ゴヤに関する世界最大のコレクションを擁するスペイン国立プラド美術館の全面的な協力を得て、同館所蔵の油彩 25 点、素描 40 点、版画 6 点、書簡 1 点に、国立西洋美術館はじめ日本国内の美術館が所蔵する版画 51 点を加えた合計 123 点を当初計画どおり借用・展示した。</p> <p>本展の構成と出品作品は、ゴヤ研究の最先端で活躍する国立プラド美術館のマヌエラ・メナ氏（18 世紀・ゴヤ絵画部長）およびホセ・マヌエル・マティーリャ氏（素描版画部長）、日本におけるスペイン美術研究の第一人者である大高保二郎氏（早稲田大学文学学術院教授）と、国立西洋美術館の担当者との共同作業により決定された。「光と影」というキーワードのもとで、近年の研究成果を踏まえながらゴヤの画業を多角的に検証し、彼の芸術の核心に迫ることを展覧会の狙いとした。</p> <p>主要新聞・雑誌・テレビ等で注目すべき展覧会として紹介されたほか、一般来場者からも「これだけの作品が集まっていることはすごいことだと思うし、プラド美術館もよく貸してくれたと思います。マハはもちろん、版画の数々とその解説も興味深かった」（20 代女性）、「『着衣のマハ』『日傘』を日本で見られるなんて！あらためて日本の美術館ってすごいなと思いました」（40 代女性）など、好評を得た。</p> <p>（2）入場者数</p> <p>343,315 人。当初計画では約 45 万人を見込んでいたが、平成 23 年 3 月の東日本大震災の影響による美術展入場者の減少傾向が想定以上に長引き、34 万人強にとどまった。</p> <p>（3）教育普及活動</p> <p>次項目で詳述するとおり、一般来館者に展覧会の内容を分かりやすく紹介することに努めた。</p>			

2. 補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

(1) 高校生の入場料無料化

国民への実質的な還元策として、従来実施している中学生以下の入場料無料措置に加え、平成23年12月20日(火)～平成24年1月9日(月・祝)の15日間は高校生も入館料無料とした。全体入場者数が当初計画を下回ったことと連動し、高校生の入場者数も当初計画の1万人には到達しなかったものの、無料期間中の高校生入場者の総数は1,400人、一日平均は93人であり、有料期間中の高校生入場者一日平均53人(総数3,538人)に比べ2倍近い人数である。従って、無料化措置により高校生の来館を促すことは一定の効果が上がったとすることができる。

(2) 展示作品の質・量の充実

東日本大震災の発生により海外からの美術品貸出のキャンセルが相次ぎ、中止、延期、縮小を余儀なくされた展覧会が少なくなかったが、本展は当初の予定通りに充実した内容で開催することができた。海外の美術関係者が日本への作品貸出を大きなリスクと感じるような状況の中で政府補償制度が設立され、本展がその最初の適用対象となるよう開催館および主催者が準備を進めていたことは、プラド美術館が安心して作品を日本へ送り出すための保証となったと言える。

(3) 教育普及活動の充実

① 記念講演会の開催

いずれも国立西洋美術館講堂(定員140名)で開催し、満員だった。

- ・10月22日(土)「ゴヤ 光と影—出品作品をめぐって」
講師=マヌエラ・メナ氏(国立プラド美術館18世紀・ゴヤ絵画部長)
ホセ・マヌエル・マティーリャ氏(同素描版画部長)
- ・11月26日(土)「ゴヤの生きた時代—啓蒙、革命、そして戦争」
講師=立石博高氏(東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授)
- ・12月10日(土)「二つの時代を生きた画家ゴヤ：その芸術と人間像」
講師=大高保二郎氏(早稲田大学文学学術院教授)
- ・2012年1月14日(土)「ゴヤと近代美術」
講師=村上博哉氏(国立西洋美術館学芸課長)

② スライドトークの開催

本展のみどころや主要作品について、スライドを使って分かりやすく解説した。

日程：11月4日(金)、18日(金)、12月9日(金)、2012年1月13日(金)

各日18時から(夜間開館の時間帯に実施)

会場：国立西洋美術館講堂

解説者：豊田唯氏(早稲田大学大学院・日本学術振興会特別研究員)

参加者数：のべ420名

③ 展示映像(ゴヤの生涯と主要作品の紹介映像)

国立西洋美術館企画展ロビーで放映し、来場者の理解を深める一助とした。

当初から計画していた記念講演会、スライドトークの開催に加え、来場者の理解をより深めるために展示映像の制作・放映も行った。

3. 事故の有無・安全管理に関する事項等（軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む）

万全の体制で輸送・展示作業を行ったこと、また、会期中も警備・監視要員を十分に配置していたことから、ヒヤリハット事例も含め、事故はまったくなかった。

※ヒヤリハット事例とは、事故には至らなかったものの、事故となってもおかしくなかった一歩手前の事例をいう。
文字通り突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの。

4. 紹介事例・今後の改善点等

国立西洋美術館で開催された過去5年間の企画展で、30万人を超える来場者を記録した例は今回を含めて2回しかない。従って本展の開催により、若年層を含めた多くの国民に、優れた美術品を鑑賞する機会を提供できたと考えている。ゴヤの代表作に数えられる《着衣のマハ》や、男性肖像画の傑作として知られる《ホベリャーノスの肖像》などの油彩画のみならず、多数の素描作品がプラド美術館の外で公開されることはきわめて稀であり、本展はこれらの作品を通じて、ゴヤの芸術の多様性と深みを日本の国民に紹介する貴重な機会となった。

本展が最初のケースとなった会期中一定期間の高校生無料化については、（1）ポスターやチラシ、ホームページへの掲載、（2）通常よりも多くの高等学校に向けてポスターやチラシを送付、（3）読売新聞紙面や他主要新聞での広告掲載、（4）周知物の掲出時期を高校生無料化期間の前に集中させる、など周知に努めた。今後同様の取り組みを継続・発展することによって一般に浸透すれば、より大きな効果が期待できるであろう。

5. 展覧会の収支決算書

主催者名

国立西洋美術館、読売新聞社

(収入)		(支出)	
区 分	決算額	区 分	決算額
展覧会収入・その他の収入	562,895,926	企画準備等基本経費 注)	334,175,861
共催者負担	37,942,551	設営・運営等会場関係経費	266,662,616
収入総額	600,838,477	支出総額	600,838,477

注) 美術品保険料は補償制度の導入により、当初想定額よりも約3460万円、軽減された。